

## (2) - 2) ②ミズバショウをシンボルにした農業事業やエコツーリズム利用(全国各地)

身近な地域に群落するミズバショウをシンボルにした里地里山や水環境の保全、さらに農業振興事業やエコツーリズムへの活用などの事例が全国各地で見られる。



写真：雪解けの頃各地の里山の湿地で見られる水芭蕉の群生（撮影地：長野県長野市）

### a. 取組の背景と経緯

ミズバショウは、湿地に自生し国内各地の里地里山に多数の群落を形成している。ミズバショウには自然豊かな里地里山や湧水のイメージがあり、また有名な唱歌にも出てくることもあって知名度が高く身近な植物であるといえる。

こうしたことから、昨今のエコツーリズムへの高まりや農地水環境保全向上対策事業などの農水省等の事業メニューにおいて、保全活動に関連しながら地域で活用できるシンボルテーマとして取り上げられる事例が全国各地で見られる。

### b. 活用方法

#### ■エコツーリズムの活用

春の観光シーズンに開花する代表的な植物として地域観光等に活用されている。ミズバショウ群落の周辺の農道に看板を設けたり、群落地に木道を設置し休憩所を作るなど遊歩道を整備。比較的集落近傍の湧水湿地に位置していることから、ミズバショウと農業や地域文化など他の里地里山資源とセットにしたトレッキングプログラムを設定しガイドツアーを企画するなどの試みが各地のエコツーリズム団体を中心に実施されている。

#### ■農業事業における活用

農業に欠かせない水源地のシンボル植物として、従来から地域住民による保全保護の動きが各地の農村集落等で見られる。

2007年から始まる農林水産省の農地・水・環境保全向上対策事業に取り組む集落では、地域の米づくりのPRに関連させたり、水路管理やため池に水を供給する湧水地や後背湿地の代表的な植物として保全保護の対象に取り上げている。事業活動に非農家の理解を得て参画を促すためのテーマとしても活用されている。ミズバショウ祭りなどの地域イベントを企画し、地域農産物の販売促進のシンボルテーマに掲げるなどの活用も見られる。

### c. 保全活動や野生生物への効果

ミズバショウの保全活動を契機に、里地里山の水辺環境に着目した保全活動が活性化し、イバラトミヨなど湧水地に生息するより希少な他の野生生物保護へ展開した事例などが見られる（新潟県胎内市・イバラトミヨ水芭蕉の会など）。また、エコツーリズム分野においては、「ミズバショウ基金」が設立され、参加費の一部が環境保全・保護団体へ寄付されるなどの展開事例がある（尾瀬・チャウス自然学校）。